

# 大阪府教育委員会 令和3年度完了報告書

令和3年度「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方」に関する調査研究の完了報告書を次のとおり提出します。

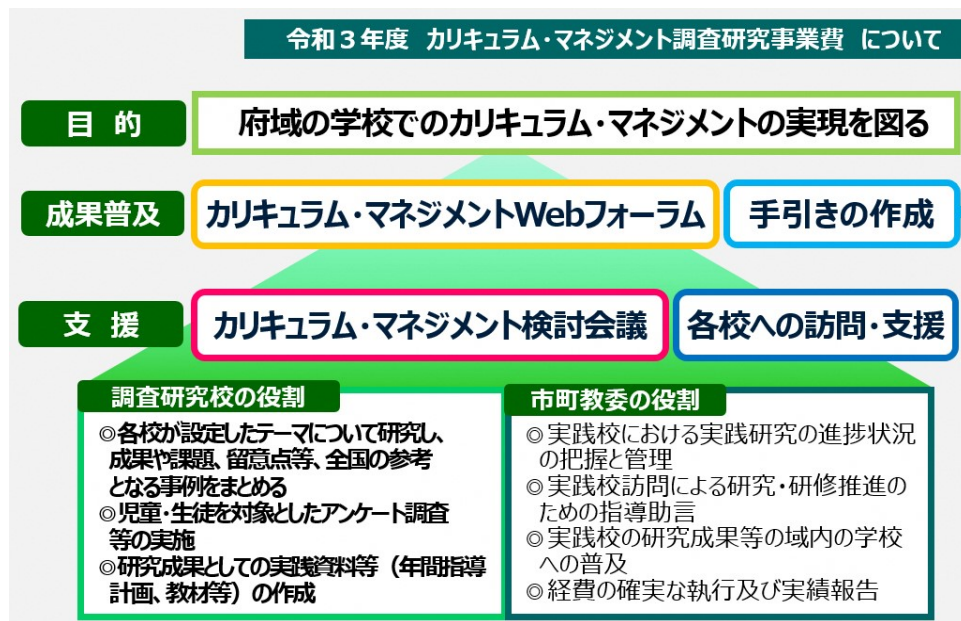
## 1. 調査研究概要

令和元・2年度にかけて、大阪府教育庁が再委託した府内5市町7校（小学校6校、中学校1校）の各実践校で、令和元年度までの自校の取組みから編成した教育課程を元に、実践、評価、改善を行った研究成果についての事例を「大阪府カリキュラム・マネジメントの手引き」としてまとめた。

令和3年度からは、前年度までと異なる4市町4校（小学校3校、中学校1校）の実践校を指定している。前述の手引きを参考にしながら各実践校で取組みを進め、以下の2点を中心に調査研究を行った。

- (1) 先行研究の成果をどのように自校の課題や実態に合った形で落とし込んでいくのか
- (2) 年間を通してPDCAサイクルを回しながら、どのように各校の課題を解決し、教職員がカリキュラム・マネジメントの意義を理解し、その効果を実感しながら、学校全体で組織的に取組みを進めることができるか

調査研究の目的、成果普及の方法、府教育庁として各市町及び各校への支援、調査研究校や市町教育委員会の役割についての概要は右図の通り



各調査研究校における調査研究を円滑に実施するために、以下のような取組みを実施した。  
(それぞれの取組みの成果や課題については、「3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策」の項目で記載する)

#### ①「カリキュラム・マネジメント検討会議」

目的：大阪府教育庁が調査研究校に対し、本調査研究の円滑な実施のために必要な指導・助言、調整を行う

内容：第1回（8月3日Web実施）

- ・調査研究校のこれまでの取組みと今後の展望について（各校による発表）
- ・大阪教育大学 田村知子教授による助言及び講義

第2回（10月27日集合開催）

- ・カリキュラム・マネジメントの手引き完成に向けての協議
- ・カリキュラム・マネジメントWebフォーラムに向けての協議
- ・大阪教育大学 田村知子教授による助言及び講義

#### ②「各調査研究校への訪問・支援」

1学期 → 調査研究校との打合せ（Web実施）

時期：6月22日～6月30日（1校ずつ実施）

参加者：市町教委担当指導主事等及び調査研究校担当者

内容：年度当初の取組み状況と今後の方向性についての共有

2学期 → 調査研究校訪問（府指導主事2～3名）

時期：11月29日～12月22日

参加者：市町教委担当指導主事等及び調査研究校担当者

内容：Webフォーラム実施や手引き作成に向けた協議及び指導助言

#### ③「カリキュラム・マネジメントWebフォーラム」（1月25日 Zoomにて実施）

目的：令和3年度カリキュラム・マネジメント調査研究事業実施校が、大阪府作成の「カリキュラム・マネジメントの手引き」を参考にして取り組んだ調査研究内容についてWebフォーラム形式で発信することで、教職員がカリキュラム・マネジメントの意義を理解し、その効果を実感しながら、各校の実態に応じて学校全体で組織的に取組みを進め、府域の学校のカリキュラム・マネジメントの実現を図る

内容：「教職員が効果を実感できるカリキュラム・マネジメントのために」

実践報告及び対談 四條畷市立忍ヶ丘小学校、富田林市立小金台小学校  
忠岡町立東忠岡小学校、田尻町立中学校

指導助言及び講義 大阪教育大学 教授 田村 知子

#### ④「小・中学校 カリキュラム・マネジメント実践研修」（大阪府教育センター実施）

目的：カリキュラム・マネジメントの意義とその充実に向けた取組みについて理解を深めるとともに、組織的にカリキュラム・マネジメントを推進する力を高める

内容：第1回（6月1日Web実施）

- ・大阪教育大学 田村知子教授による助言及び講義
- ・令和元・2年度の調査研究校（摂津市立摂津小学校）担当者による実践発表

第2回（2月14日Web実施）

- ・研修参加者によるグループ協議
- ・次年度への継続的な取組みについて構想する演習

## ⑤「カリキュラム・マネジメントの手引き」作成

### 【手引きの構成】

これまで、手引きの作成にあたっては、カリキュラム・マネジメントについての基礎的な知識の理解を深めることができるページを作成するとともに、各校の研究について、カリキュラム・マネジメントに関わる三つの側面それぞれに対応した取組みごとに章立てし、「児童や学校、地域の実態を把握すること」、「教職員全員で取り組むこと」、「取組みの内容や成果を発信すること」の3つの視点を共通の軸として取りまとめてきた。

また、カリキュラム・マネジメントの実現に向けて読者の課題がどこにあり、どのページから読み進めるとよいかを図で示した「カリキュラム・マネジメント Yes/No チャート」や、調査研究校が実践を進めるにあたって、苦労したことや実感したことについて、Q&A形式で質問に答えた「Q&A インデックス」を作成し、他校でも取組みを進めてみたくなるような工夫をした。

手引きの構成は次表のとおり。

#### 第1章 カリキュラム・マネジメントを知ろう

- カリキュラム・マネジメント Yes/No チャート
- “カリキュラム・マネジメント”って何だろう？
- カリキュラム・マネジメントの実現に向けた年間スケジュール例
- カリキュラム・マネジメント Q&A インデックス

#### 第2章 カリキュラム・マネジメントの実現に向けた実践事例とその工夫について

カリキュラム・マネジメントの3つの側面を通して、教育活動の質の向上を図ろう

- (1)教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていく事例
- (2)教育課程の実施状況を評価してその改善を図る事例（PDCA サイクルの構築）
- (3)教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制の確保とともにその改善を図る事例

#### 第3章 カリキュラム・マネジメントのための参考資料集

第2章で紹介した調査研究校の実践事例の中で実際に活用したワークシート等を参考資料として第3章にまとめ、他校でも活用できるようにした。本手引きは、全編PDFデータとして作成し、大阪府のホームページ上に公開している。他の学校の教職員がタブレット端末等を使って、「いつでも、どこでも参考・活用できる手引き」として使用できることをねらいとしている。

令和3年度は、教職員がカリキュラム・マネジメントの意義を理解し、その効果を実感しながら、各校の実態に応じて学校全体で組織的に取組みを進めることができるようにし、「府域の学校でのカリキュラム・マネジメントの実現を図る」という目的を達成すべく、これら①～⑤の取組みを中心に調査研究を進めてきた。

今年度の各実践校が年間を通してどのように取組みを進めたかを時系列にとりまとめたページを作成し、読者が自分の学校の実態や課題に合ったカリキュラム・マネジメントについて理解し、見通しをもって取り組むことができるようにした。

(実践地域における年間実施スケジュール)

月	取組内容	
4月		
5月	実践校の決定（4校）、担当指導主事との打合せ（Web実施）（府）（5/24）	
6月	カリキュラム・マネジメント実践研修（府）（6/1） 実践校との打合せ（Web実施）（府）（6/22～30）	各校の取組みの現状把握
7月		
8月	第1回カリキュラム・マネジメント検討会議（8/3）	1学期末までの取組み検証
9月		
10月	第2回カリキュラム・マネジメント検討会議（10/27）	第1回検討会議を受けて 取組みの検証及び改善
11月	実践校訪問（府）（11/29～12/22）	
12月	↓	
1月	大阪府カリキュラム・マネジメントWebフォーラム（1/25）	2学期末までの 取組みをまとめ 府域にWebに公開
2月	カリキュラム・マネジメント実践研修（府）（2/14）	
3月	今年度の研究についての成果等の検証 カリキュラム・マネジメントの手引き（増補版）の公開	

## 2. 調査研究の内容

### ①富田林市立小金台小学校

#### (1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

小中一貫校としての9年間を見通し、  
めざす子ども像の実現に向けた教育課程編成に係る実践的研究

#### (2) 調査研究の内容

調査研究校は、隣接する明治池中学校と1小1中の編制であり、かねてより相互のつながりが深いことから、本市の学校再編の一貫として、令和4年度より「小中一貫校」として新たなスタートを切る予定である。

このことを踏まえると、「学園のめざす子ども像の策定」「9年間の新たな教育課程編成」「9年間で育てたい学力像の構築」「生き方を追究する総合的な学習の時間の再構築」が必要となってくる。さらに、これらの営みを着実に進め、求められる資質・能力を確実に育成していくためには、学校の教育課程全体を見渡し、相互に関連付け、教科横断的な視点で教育活動の質的向上を図る、組織的・計画的なカリキュラム・マネジメントが重要となる。

そこで、それらに基づき、以下の研究を進めた。

- ①小中一貫校としての9年間を見通した、めざす子ども像の策定や教育課程編成の研究
- ②9年間通じて一貫して重点的に育成する「育てたい力（考える力）」の策定と、その育成に向けた段階的・系統的な習熟の手立ての研究
- ③国語科の授業研究による言語能力育成の取組みと系統的な指導計画の作成。また、それを基盤とした、教科等横断的な取組みによるさらなる言語能力の向上促進
- ④生活科・総合的な学習の時間等のカリキュラムを再構築し、今日的な社会課題（SDGs、キャリア等）を踏まえたこれからの「生き方」を9年間で追究していく新たな学びのためのカリキュラムの作成

#### (3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

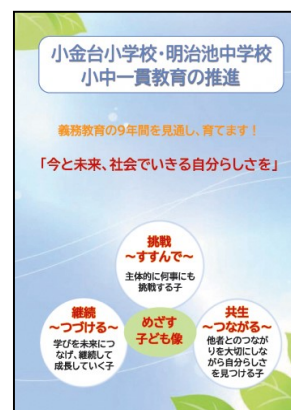
##### 研究内容①について

9年間の全体像を踏まえながら小学校の教育課程編成を進める根幹として、小中学校で一貫してめざす子ども像を『今と未来、社会でいきる自分らしさを』と策定した。

また、めざす子ども像を具現化する手立てとして、小学校では「つづける」「すすんで」「つながる」、中学校では「継続」「挑戦」「共生」をサブテーマに設定した。

さらに、リーフレットを作成し、児童・生徒ならびに保護者に配付することで、本研究の趣旨を広く周知した。

しかし、現在では、めざす子ども像を示す文言がスローガン調になっており、子どもの姿が連想しづらいとの意見もでてきており、今後、より具体的に子どもの姿を共有できるものに変更していく必要がある。



## 研究内容②について

めざす子ども像を具現化する道筋として、9年間かけて育成したい力の構造図を作成した。

そこでは、課題発見・解決能力の基礎となる「とりいれる力」「カタチにする力」「つたえあう力」「今をいきる力」を育成する上で必要となる技能を各発達段階に応じて整理することにした。

		前期 (小1～小4)	中期 (小5～中1)	後期 (中2～中3)
とりいれる力	きく			
	よむ			
カタチにする力	みとおす	わくわく	じっくり	ひろく
	あつめる			
	えらぶ			
つたえあう力	くみだてる	わかる	なぜを	ふかく
	しあげる			
	はなす	できる	つかむ	えがく
今を生きる力	かく			
	みつめる			
	つなげる			

	前期	中期	後期
きく	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。
よむ	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。
みとおす	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。
あつめる	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。
えらぶ	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。
くみだてる	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。
しあげる	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。
はなす	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。
かく	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。
みつめる	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。
つなげる	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。	発話の意図や内容に注意して、相手の話を聞きとる。
	わくわく わかる できる	じっくり なぜを つかむ	ひろく ふかく えがく

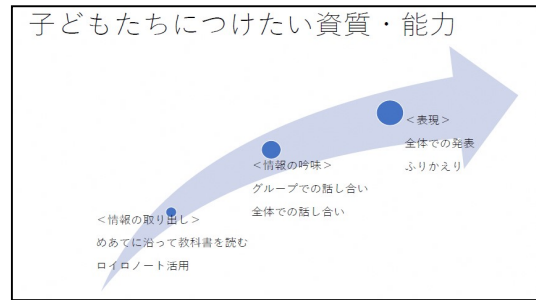
各発達段階の区切りについては、小学校1年生から4年生までを「前期」、小学校5年生から中学校1年生までを「中期」、中学校2年生から3年生までを「後期」とすることで、より円滑な小中接続をねらいとした。課題としては、構造図が細分化されすぎており育成していくべき力の関係性や系統性が一望できないことがあげられる。現在文言を簡略化し、焦点化した構造図を作成しているところである。

## 研究内容③について

国語科の授業研究においても、言語能力の育成について、先述した構造図と関連させながら取組み、常に子どもたちにつけたい力の系統を確認しながら研究を進めた。このことで、単元計画を作成する際も単元のゴール(つけたい力)から逆算して、指導計画が作成されるようになり、必然的に指導と評価の一体化が図られるようになった。

さらには、子どもたちの学びを支えるツールとしてタブレットが有効活用され、思考ツールの使用が一般化したことも成果の一つである。

国語科における研究の課題としては、研究の効果検証があげられる。国語科においては、コミュニケーション能力等、数値化して評価しづらい能力の見取りが必要となるため、今後、評価方法の確立に向けた研究が急がれる。



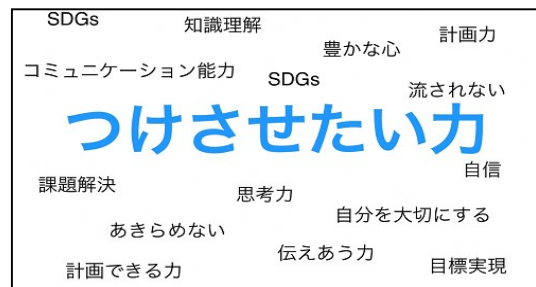
## 研究内容④について

生活科・総合的な学習の時間等のカリキュラムを再構築し、今日的な社会課題(SDGs、キャリア等)を踏まえたこれからの「生き方」を9年間で追究していく新たな学びのためのカリキュラムの作成については、その呼称を「未来科」として研究を進めた。

「未来科」においてもまずは、つけさせたい力を集約することから骨格作りをすすめた。新教科の設置というよりは、「未来科」はあくまでも既存の生活科、総合的な学習の時間の再構築であり、これまでの取組みを検証し、めざす子ども像の具現化に有効なものを系統化していくことを目的とした。

また、「未来科」は、各教科で育まれた力が発揮される場でもあるため、系統性を持って進めていくためには、「未来科」とつけたい力の構造図、及び各教科との関連を明らかにした、指導計画表を作成する必要がある。

観点	単元目標	評価規準
知識・技能 (1)ーア	(1)言葉によって、相手とつながるきっかけを作ることができることを、文章のエピソードを読んで気づく。	①叙述に即して、戦争や平和を知るために、エピソードがつながっていることに気づいている。
思考・判断・表現 (話すこと・聞くこと)(1)ーア (読むこと)(1)ーオ	(2)広島のことを語り継ぐために、伝えたい内容を分類したり、話の構成を考えたりしながら、話す内容を検討することができる。 (3)文章を読んで感じたことを友達と共有し、戦争や平和に対する考えを深めることができる。	②戦争のことで伝えるべきことはどんなことなのかを叙述から読み取り、話す内容を決めようとしている。 ③戦争や平和について語りたいと思うことを友達との話し合いを通じて決めようとしている。
主体的に学習に取り組む態度 (2)	(4)広島で起こった出来事を将来にわたって自分のできる環境に応じて伝えていこうとする。	④戦争や平和を語り継ぐために自分ができることを見つけて、実践しようとしている。



#### (4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
5月	
6月	校内研究授業① 府教育庁との打合せ（Web 実施）
7月	
8月	第1回カリキュラム・マネジメント検討会議 先進校視察（※新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できず）
9月	
10月	第2回カリキュラム・マネジメント検討会議
11月	校内研究授業②
12月	府教育庁による学校訪問 外部講師による校内研修 2学期成果検証
1月	カリキュラム・マネジメント Web フォーラム 外部講師による校内研修
2月	研究中間発表（校内研究授業③）外部講師による指導助言
3月	年度末成果検証

## ②四條畷市立忍ヶ丘小学校

### (1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

研究テーマ 自分の思いや考えをわかりやすく伝え合う児童の育成  
 ～各教科で汎用的に活用できる書く力の向上をめざして～  
 めざす子ども像「すすんで学び 自分や友だちを大切にする子」

### (2) 調査研究の内容

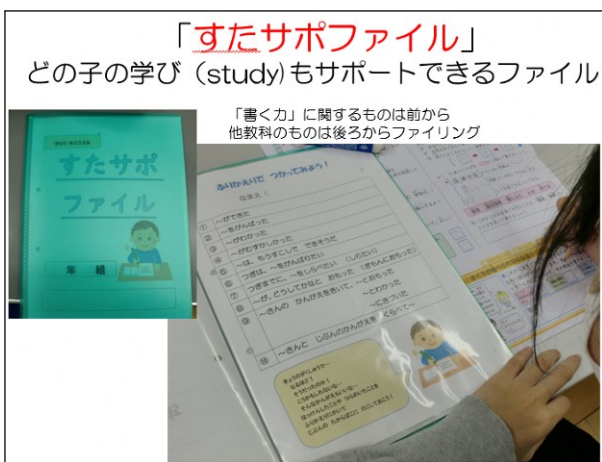
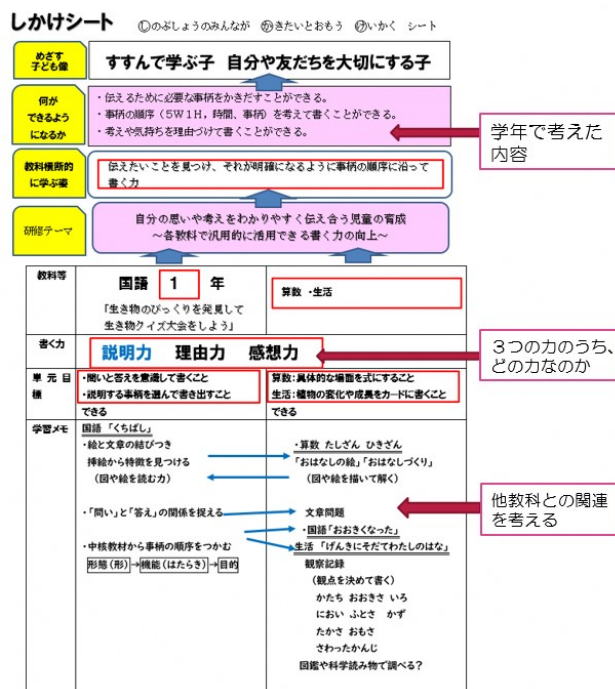
国語科で身につけた「書く力」を他教科にどのように生かしていくのかに焦点を絞り調査研究を進めた。

「他教科で汎用的に書く力」を育成すべく、めざす子ども像を見つめなおすことで、学校全体の教育課程の見直しを図り、教科横断的な視点から再整理することができた。

「大阪府カリキュラム・マネジメントの手引き」も参考にしながら、第1回の校内研究では、「めざす子ども像」と「研究テーマ」をつないで考えることや、各学年で「何ができるようになってほしいのか」ということをすべての教員で考えた。

また、このことを教員が1年間意識し続けることが大切だと考え、1学期に1本の「しかけシート」（上図）という簡単な実践報告の提出も呼び掛けた。

すべての教科で「すたサポファイル」（右図）を活用することで、こどもの学びを再構築し、豊かな言語活動の実現に向けた、指導計画の見直しができた。2学期後半には、子どもたちから「すたサポファイル」を見ながら学習を進める様子も見られるようになり、自分で学習内容をつかんだり、判断したり、意見交換する場面がとも増えた。





### (3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

児童に身につけたい力の育成に向かい、教師集団が一丸となって組織的に取り組めるようになった。授業では、既習事項や系統性を意識して指導できるようになった。

(アンケート結果 6月：34.8%⇒12月 76.5%)

カリキュラム・マネジメントに関するアンケート結果を見ても、肯定的回答の平均が20ポイントアップした。(下グラフ参照)

次年度に向けての課題は、評価方法の開発や実施について研究を深めることである。各教科で身につけた資質・能力を活用する場面において、教科横断的な視点から、総合的な学習の時間における探究の過程を強く意識した指導が組織的に行えるよう、今の取り組みをブラッシュアップしていく。

**「すたサポファイル」**

現状は、

- ・先生がつくる
- ・全員統一された資料
- ・先生の指示がないと活用しない

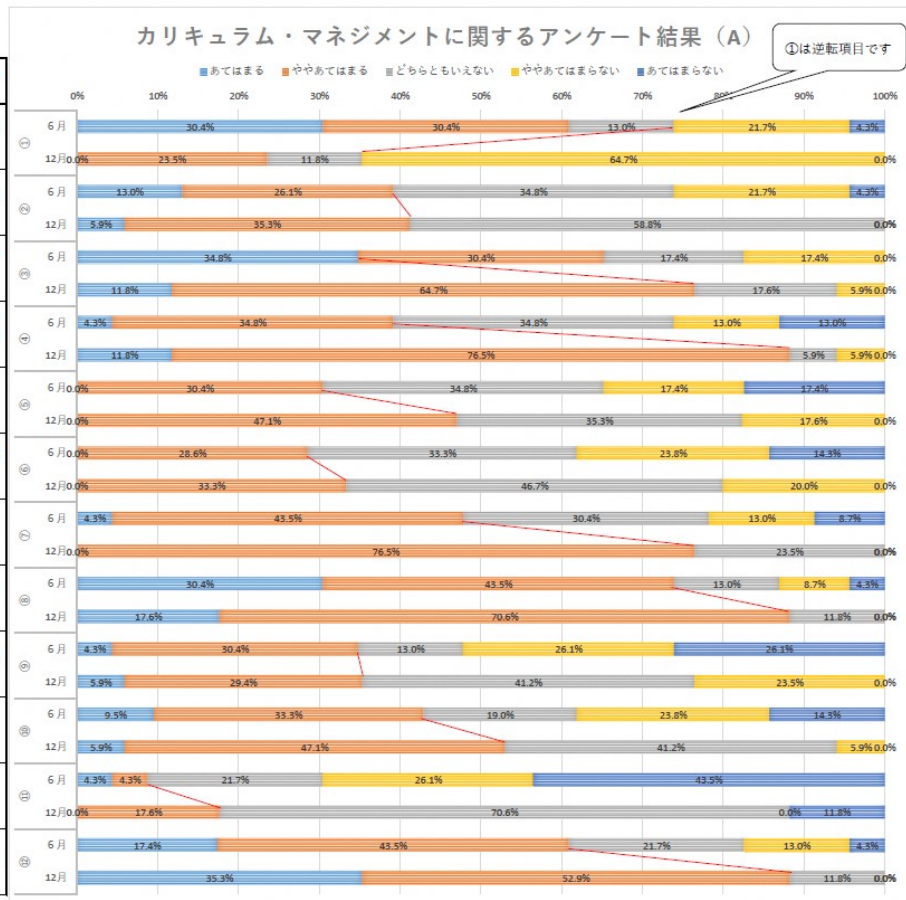
めざすのは、

- ・子どもがつくる、ときには失敗する
- ・個性や違いがある資料
- ・もっと使いたくなる「すたサポファイル」!

☆すたサポファイルを中心にカリキュラム(子どもの学び)をマネジメントし続けています!

**かいまねっと** 白旗町立五ヶ丘小学校 カリキュラム推進委員会 No.7

A	先生方ご自身の授業実践レベルでの「カリキュラム・マネジメント」について
①	私は、教科書や指導書に沿って授業を行うのに手一杯になりがちである。
②	私は、各教科等の教育目標や内容の相互関連を意識して日々の授業を行っている。
③	私は、既習事項や、先の学年で学ぶ内容との関連(系統性)を意識して指導するようにしている。
④	私は、教科指導において、知識・技能の習得だけでなく、単元を通して重要な概念やプロセス、原理などを深く理解させるように指導をしている。
⑤	私は、パフォーマンス評価など、思考力・判断力・表現力などを評価する方法の開発や実施に取り組んでいる。
⑥	私は、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導をしている。
⑦	私は、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置づけている。
⑧	私は、教科の学習内容を、実生活や社会での出来事に関連づけて指導するよう心がけている。
⑨	私は、年度当初、教育課程を計画する際、評価規準や方法、時期なども併せて計画している。
⑩	私は、教育実践の成果、課題などを記録しておき、次の単元や次年度の実践の改善に役立てている。
⑪	私は、地域の人材や素材を積極的に活用している。
⑫	私は、新しい実践に対して前向きに取り組もうとしている。



(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
5月	カリキュラム・マネジメント研修会 ～学習指導要領総則からみた児童の実態の考察～（市教委指導主事から指導助言） 児童アンケート、教職員アンケート（前期）の実施
6月	「しかけシート」（実践報告書）を活用した実践 府教育庁との打合せ（Web 実施）
7月	「しかけシート」（実践報告書）を活用した実践
8月	第1回カリキュラム・マネジメント検討会議 夏季研修 学習ツール用ファイル「すたサポファイル」の作成
9月	「しかけシート」（実践報告書）を活用した実践
10月	「しかけシート」（実践報告書）を活用した実践 第2回カリキュラム・マネジメント検討会議
11月	研究授業・校内研究「国語科と社会科の教科横断的な取組み実践」 「カリキュラム・マネジメント」研修会（田村先生のご講演） 府教育庁による学校訪問
12月	単元配列表の見直し 児童アンケート、教職員アンケート（後期）の実施
1月	研究授業・校内研究「国語科と生活科の教科横断的な取組み実践」 カリキュラム・マネジメントWeb フォーラム
2月	アンケート結果からのアセスメント
3月	総括

### ③忠岡町立東忠岡小学校

#### (1) 研究テーマ

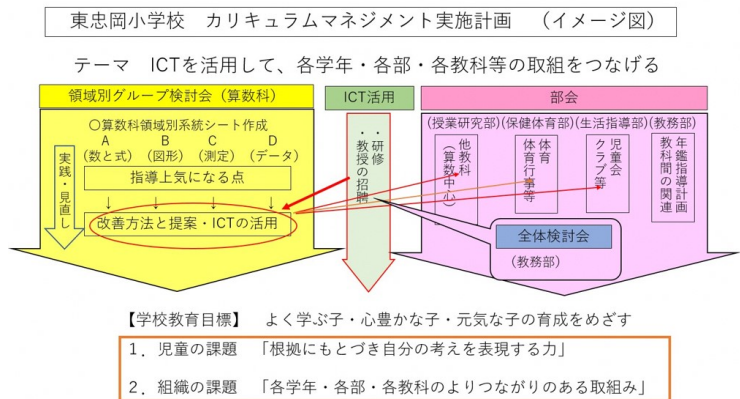
- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

ICTを活用して各学年・各部・各教科等の取り組みをつなげる

#### (2) 調査研究の内容

「根拠をもって、自分の考えを自分の言葉で表現できる力」を育むため、カリキュラム・マネジメントに学校全体で取り組む（右図）。

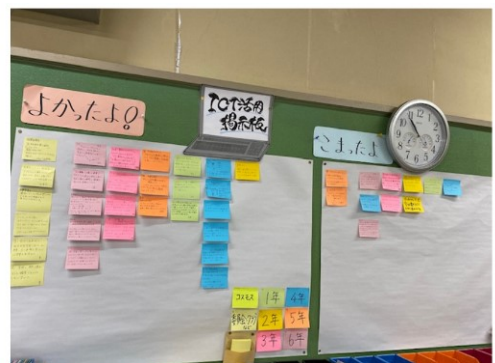
- ICTを活用した授業実践の蓄積・算数科を切り口に領域別研究の実施（系統図の作成、領域別グループごとの報告を共有）
- 各学年、各部、各教科等の取組みをつなげる（年間計画の見直し）



#### (3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

##### 【成果】

- ・ICTを活用することで、児童同士がより交流することができ、視覚的に伝わりやすい発表が可能になった。児童が工夫して取り組むことで、意見交流も活発になった。発表ノートを使って相手に分かりやすくするための工夫（色付け、補助説明）がされるようになった。
- ・教職員全体で取組みを共有しやすくするために、職員室にICT活用掲示板を設置した。その結果、情報を手軽に活用することができた（右図）。
- ・年間指導計画表を色付けすることで、一人ひとりがつながりをより意識し始めた（下図）。



▲児童会活動で子どもたち同士がふせんにメッセージを書いて貼る取組みからヒントを得て、ICT活用掲示板を設置することになった。  
教職員同士で ICT の効果的な活用についてコミュニケーションをとる場面が増えた。

9月	10月	11月
休活動の見直し	リサイクル活動への取り組み	経営会の計画
コンピューター目録の利用	避難訓練	場に応じた話し方
オープンスクール		児童会行事
宿泊学習		授業参観
健康診断		運動会
非行防止教室		
自然からのプレゼント	世界遺産についてまとめて発表しよう	
宿泊学習に向けて		
	Unit6 I want to go to Italy.	Unit 7 What would you like?
Unit5 He can run fast. She can do kendama.		
からたちの花 どちらを選びますか 新聞を読もう 初詣 たすねびと 漢字の広場②	漢字の読み方と使い方 秋の夕暮れ よりよい学校生活のために 【オキナム】意見が対立したときには 漢字の広場③ 園有種が教えてくれること 【情報】統計資料の読み方	グラフや表を用いて書こう 古典芸能の世界一語りで伝える カンジエー博士の暗号解読 古典の世界(二) 漢字の広場④
算数の性質	活用	分数と小数、整数

(児童アンケート) 1学期より2学期のポイントが上がっている。

- ①話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりしている **75%→77%**
- ②自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫している **68%→71%**

(教師アンケート) 1学期より2学期のポイントが上がっている。

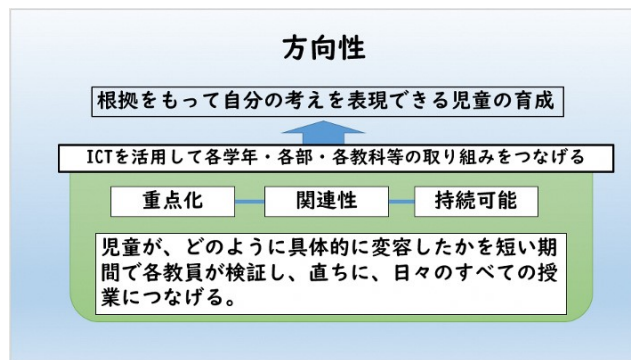
- ①児童生徒は、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫している **60%→86%**
- ②児童生徒は話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている **72%→80%**

#### 【課題】

- ・ICTの活用が目的になっている場面がある。
- ・子どもにつけたい力に正対した教科横断的な取組みの重点化が必要である。
- ・日々の授業につなげるために、より短い期間で成果を検証する必要がある。

#### 【改善方策】

- ・ICTを活用する際に、それぞれの学年の発達段階に応じた活用を研究し授業改善につなげていく。
- ・教科横断的な重点テーマに絞り込んだ研究を進める。
- ・PDCAサイクルのC（評価、検証）やA（実践）により重きを置く。短時間でのC・Aの回数を積み重ねていく。



#### (4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
6月	領域別グループ検討会 府教育庁との打合せ (Web 実施)
7月	全体検討会、児童・教職員アンケート実施・分析
8月	第1回カリキュラム・マネジメント検討会議 領域別グループ検討会、大学教授による助言、カリキュラムの見直し・再計画
9月	領域別グループ検討会、
10月	校内研究授業実施、大学教授による助言 第2回カリキュラム・マネジメント検討会議
11月	領域別グループ検討会、研究授業の分析・共有
12月	府教育庁による学校訪問 カリキュラムの見直し・再計画、児童・教職員アンケートの実施・分析
1月	校内研究授業の実施、大学教授による助言 カリキュラム・マネジメント Web フォーラム
2月	校内研究授業の分析・共有、カリキュラム・マネジメント事業の年間報告会
3月	児童・教職員アンケートの実施・分析、カリキュラムの来年度に向けて再計画・引き継ぎ

#### ④田尻町立中学校

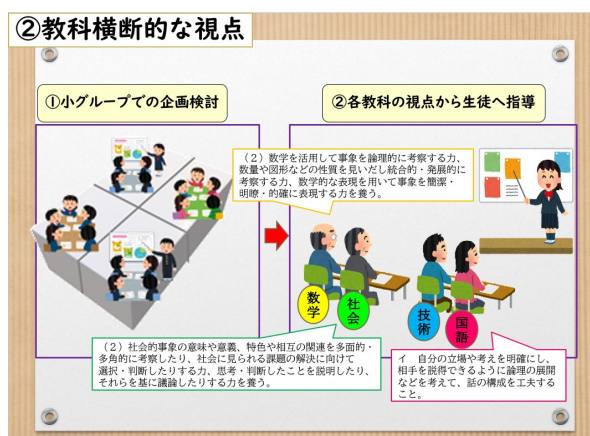
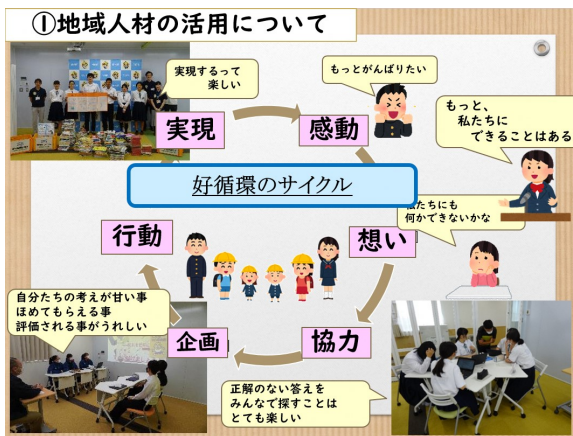
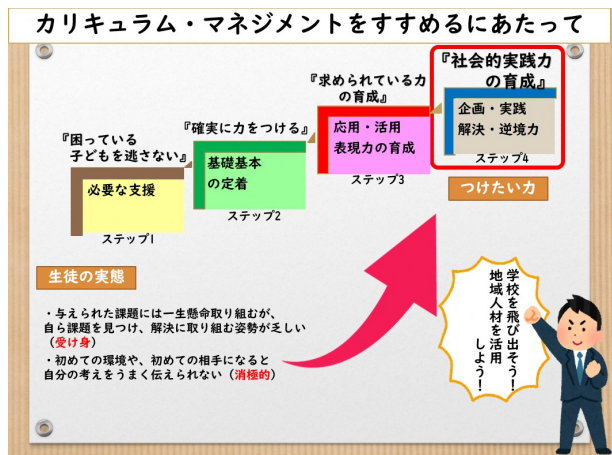
##### (1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

社会に開かれた教育課程の実践から、現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

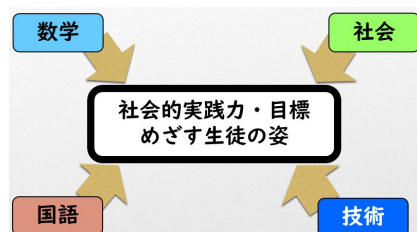
##### (2) 調査研究の内容

中学生が、地域や役場の各課と意見を交流し、SDGsの観点から田尻町が抱える現代的な諸課題について、「1. 自分たちに何ができるか。」「2. 学校全体で何ができるか。」「3. 地域・役場と連携・協力して何ができるか。」という3つの視点で解決に向けて、企画・立案・提案し、実践していった。



▲子どもたちが町のためにできることを考えた“想い”を大切にスタートした。  
自分たちの想いを実現するために子ども同士で協力し合ったり、企画したりする中で、さまざまな地域人材と関わりながら、時には失敗や挫折も経験しつつも、行動し続けた。  
ものごとを成し遂げることの楽しさややりがいを実感でき、そこで感じた感動や、もっと頑張りたいという意欲が次の取組みにつながり、「好循環のサイクル」となっていた。

▲子どもたちが各グループで企画・提案したものについて、各教科の視点から生徒に指導を行った。その内容は、各教科の学習指導要領に基づいた内容であることはもちろん、子どもたちにつけさせたい力を意識した授業づくりにもつなげていった。



### (3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

(○：成果、●：課題)

- 研究体制の見直し及び再構築を行う中で、校務分掌を見直し、教務部として細分化することで、カリキュラム・マネジメント主担当者として位置づけることができ、推進しやすくなった。
- 総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントを推進し、つきたい力を共有することで、それぞれの教科において教科横断的な視点での授業改善が進んだ。  
また、子どものアイデアを尊重し、子ども主体の授業づくりを意識するようになった。
- カリキュラム・マネジメントを行うことで、教科と教科、教職員・生徒同士、学校と地域というように様々な場面において「つなぐ」「つながる」ことができた。
- 生徒の変容として、与えられた課題に取り組むだけでなく、探究的な学習を進めることで、主体的に学習に取り組む生徒が増えた。「自分の考えが実現する」という成就感から、更なる活動へとつながった。
- 主担当者の学年や教科においては、カリキュラム・マネジメントが大きく進んだが、全学年までは推進できていない部分もあり、学校全体で取り組みを進める必要がある。  
→カリキュラム・マネジメントの成果や生徒の変容を分析し、全教職員で共有することで、課題改善を図る。

### (4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
6月	○カリキュラム・マネジメント校内検討会議 ○教育委員会・中学校・役場・地域連携会議 ●府教育庁との打合せ（Web 実施）
7月	○学期末アンケート実施
8月	●第1回カリキュラム・マネジメント検討会議 ○探究的な学習に関する研修会実施（オンライン）講師招聘
9月	○カリキュラム・マネジメント校内検討会議
10月	●第2回カリキュラム・マネジメント検討会議 ★第1回ミーティング（中学校・役場・地域連携）
11月	★中学校引き継ぎ会（中学校3年生から中学校2年生へ）
12月	★第2回ミーティング（中学校・役場・地域連携） ●府教育庁による学校訪問
1月	●カリキュラム・マネジメントWeb フォーラム
2月	○研修会（オンライン）講師より生徒の発表について助言をもらう
3月	★第3回ミーティング（中学校・役場・地域連携） ○年度末アンケート実施 ○令和4年度に向けて全体計画検討会を開催 ○アンケート項目見直し

○：校内での取組、●：大阪府との取組、★：中学生の取組

### 3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

(○：成果，●：課題)

【成果】 (○数字は「1. 調査研究概要」の各取組みと対応)

#### ①カリキュラム・マネジメント検討会議

○第1回では、7月に実施された文部科学省による連絡協議会でご助言いただいた内容を伝え、2学期以降の各校の取組みにつなげることができた。特に、手引きをまとめるにあたって、「無意識にやっていることも言語化すること」、「学習指導要領との関係を意識して、他の学校にとって参考になるような成果を示すようにすること」が大切であるという意識を共有できた。

○第2回では、事前に各実践校の1年間の取組みを表にまとめることを宿題とし、自校の取組みの流れについて整理することにした(右図)。年間のスケジュールを表にすることで、これまでの取組みで何が効果的で、どんなところに課題があったのかを見える化でき、各調査研究校の後半の取組みの改善につながった。

1. 「カリキュラム・マネジメントの実現に向けた年間スケジュール例」(予定含む)について

月	No.	内容	対象	PDCA	成果・課題	関連性	
前年度 3月まで	1	・年度末反省【校務研究結果の共有と次年度の取組】	全校職員	A	Ref	○年度で達成しないスムーズな移行がされた。4月からの教職員が変わってもスムーズであるようになった。 ●この時点ではカリキュラムマネジメントの話はできていなかった。	同意形成 1.3.6.40.41.42.4 3
	2	・打ち合わせ【学校長のビジョンと市教委のビジョンの共有(1年後をイメージ)】	学校長、市教委	A	An	○学校長のプランと市教委のねらいが共有できた。	事前打合せ 2.4.5.12.29.44
	3	・研究配票の作成と配布	全校職員	A	Act	○研究の取組み成果と課題を転任者に4月に届けられている。	同意形成 1.3.6.40.41.42.4 3
春休み中	4	・打ち合わせ(目標と取組概要の共有)	校長、担当教員、市教委	P	An	○担当者の役割を明確にできた。 ●具体的なイメージは持てなかった。	事前打合せ 2.4.5.12.29.44
	5	・作数会議(めざす子ども像の整理、取組を中心とした教科横断的な取組につなげるために、校内研究の方向性を共有)	校長、担当教員、市教委	P	An	○学校全体の取組となるように研究部長と担当者が同軸となり、役割分担ができた。 ●校内研究とカリマネの位置づけが難しかった。	事前打合せ 2.4.5.12.29.44
4	6	・学校経営方針(ビジョンの共有)	全校職員	P	Act	○今年度の学校目標、めざす子ども像と研究方針を共有	同意形成 1.3.6.40.41.42.4 3
	7	・年間指導計画作成	各学年 教職員	P	Act	○年間指導計画を立てた ●今年度の取組になりやす	指導計画見直し 7.8
	8	・分科書作成と取組の実施 ・教科横断的な計画表(1学期分)を作成	全校職員 各学年	D	Act	○教育活動全体で「役割力、理由力、忍耐力」を意識した指導につながった。	指導計画見直し 7.8
	9	・通信①「カリマネってなんだ」	全校職員	A	Act	○担当から教職員にわかりやすい説明ができた。 ●取組の具体はまだ見えにくい	研修・通信 9.16.20.22.31.3 2.36.38.45
	10	・全国標準学力検査	4~6年生児童	C	Ref	○これまでの成果を図る	定量的評価 10.11.18.19.24. 25
5	11	・全国学力学習状況調査、すくすくウツチ	5, 6年生	C	Ref	○これまでの成果を図る	定量的評価 10.11.18.19.24. 25
	12	・打ち合わせ(めざす子ども像から、今年度の目標とする具体的な子どもの姿を引き出すための方法を共有【しかけシート等の検討】)	校長、担当教員、市教委	P	An	○内容で全校職員にわかりやすい提案ができるようになった。 ●具体的な子どもの姿の共有が難しいこと分かった。	事前打合せ 2.4.5.12.29.44
4	13	・児童アンケート前期(市、学校)	4~6年生児童	C	Act	○学校独自のアンケートでは大きな変化が見られず、見直しが必要だと感じた。	定量的評価 13.14.15.34.35. 37.39
	14	・教職員アンケート前期(市)	教職員	C	Act	○状況の把握、昨年度からの反省をつむぐ。	定量的評価 13.14.15.34.35. 37.39
	15	・カリマネアンケート前期	全校職員	C	Ref	○教職員の取組み指標が取れた。	定量的評価 13.14.15.34.35. 37.39

▲カリキュラム・マネジメントの実現に向けた年間スケジュール例

#### ②各調査研究校への訪問・支援を通して

○1学期の調査研究校との打合せでは、6月下旬に各調査研究校の取組みについて、めざすべき方向性を共有できた。

●1学期の打合せは、新型コロナウイルス感染症対策によりWeb実施だったため、年度当初の取組み状況を訪問を通して確認できなかった。

○2学期は、11月下旬~12月下旬頃に各調査研究校を、府指導主事2~3名で訪問した。8月と10月の2回のカリキュラム・マネジメント検討会議を通して、調査研究校4校の取組みを把握していたものの、実際に調査研究校の教職員や子どもの様子を見ることにより、着実にカリキュラム・マネジメントの推進に向けて取り組みが進んでいることを確認できた。

○Webフォーラム実施や手引き作成に向けた協議及び指導助言を行い、各校の特色ある取組みをどのように取り上げ、府域の教職員に向けて発信するかについて確認できた。

#### ③カリキュラム・マネジメントWebフォーラム (Zoom開催)

令和4年1月25日(火) 15:00~17:00

参加アカウント数: 84(発表者・運営除く)

○Webフォーラム形式で発信することにより、教職員がカリキュラム・マネジメントの意義を理解し、その効果を実感することができた。

アンケート結果の概要は、次頁の通り。



参加者アンケートより：

- 「本フォーラムで学んだことを、今後のカリキュラム・マネジメントの推進に活かすことができると思いますか」⇒**肯定的回答 97.6%**
- 「本フォーラムの内容を、市町村や学校内で広めようと思いますか」⇒**肯定的回答 91.7%**

(アンケート コメント欄より)

- 以下のコメントの通り、多くの参加者が、今年度の調査研究校の発表や対談から、自校でもカリキュラム・マネジメントを推進していきたいという実感を持つことができるWebフォーラムとなった。
  - ・つきたい力、めざす子ども像を全職員で共有することの大切さがわかりました。また、「メリットがあると人は動く」という言葉に共感し、カリマネの良さをみんなに伝えることで教職員も受け身ではなく自主的にカリマネを進めていくことができると感じました。
  - ・各校の取り組みが、1年目ということもあり、あまり研究していない本校でも「やってみよう」と思える取り組みが多く見られたので、とても参考になりました。
  - ・カリキュラム・マネジメントについて、勉強をする機会は何度かあったが、「具体的に何をしたら？」という疑問に対して、今回の実践例が答えてくれたような気がします。「つながり」というキーワードをもとに、教職員や生徒、地域をつないでいけるような取り組みを学校全体で考えていきたいと思いました。

#### ④小・中学校カリキュラム・マネジメント実践研修（大阪府教育センター主催）

- 第1回（6月1日Web実施）では、大阪教育大学 田村知子教授による助言及び講義をいただき、参加者がカリキュラム・マネジメントの実践に向けて具体的なイメージを持つことができた。また、令和元・2年度の調査研究校（摂津市立摂津小学校）担当者が実践発表をし、「カリキュラム・マネジメントの手引き」に掲載した取り組みについての詳細や、その成果や課題について実際に聞くことができ、参加者の理解が深まった。
- 第2回（2月14日Web実施）では、研修参加者によるグループ協議や、次年度への継続的な取り組みについて構想する演習を実施した。第1回の内容を受けて、参加者が各校で実践した成果と課題を持ち寄り、次年度からのカリキュラム・マネジメントの実践について、具体的に考えることができた。
- 本実践研修では、今年度の調査研究校4校の担当者も参加しており、府教育庁による取り組みと、府教育センターの研修の内容を連動させることができ、担当者のカリキュラム・マネジメントに対する理解をより深めることができた。

(アンケート コメント欄より)

- ・課題ばかりに目を向けるのではなく、よさや強みを明確にするためにポジティブアンケートを作成するという話が心に響いた。カリキュラムが“紙キュラム”にならないようにマネジメントをすすめていきたい。
- ・他の学校の取り組みや先生方の工夫を詳しく伺えたのでとても勉強になりました。学校や地域の特性もバラバラですが、それぞれの実情に応じて積極的に取り組んでいるところに、とても刺激を受けました。また、どの学校でもカリキュラム・マネジメントに必要なことは、教職員の共通理解や教員同士の会話だということも納得できました。



## ⑤カリキュラム・マネジメントの手引き

令和2年度末に、大阪府のHP上に手引きのPDFデータをアップロードし、府域での活用を促した。府教育庁主催の各種研修や、府教育センター実施の小・中学校カリキュラム・マネジメント実践研修でも手引きを紹介した。

大阪府公立小・中学校における令和3年度 教育課程編成状況調査より：

府が作成した実践事例集・指導の手引き等の活用状況

「カリキュラム・マネジメントの手引き」 小学校：77.6%（464校/598校中）

中学校：69.8%（199校/285校中）

○年度当初の取組み状況ではあるが、多くの学校で手引きを教員研修や授業等に活用していることがわかった。引き続き、令和3年度の研究についてデータを追加したことなどを発信し、活用を促していきたい。

Webフォーラム参加者アンケートより：

「『カリキュラム・マネジメントの手引き』をすでに活用したor読んだ」（＝認知度）⇒66.7%

●比較的、カリキュラム・マネジメントの推進に対して意識の高いWebフォーラム参加者の中でも、手引きの認知度が約3分の2であった。次年度においては、さらに手引きが活用されるように周知していく。

「手引きを活用したor読んだ時に、役立ったと思う項目」について（複数回答可）（右表）

○Webフォーラム参加者の中での調査なので、限定的ではあるが、自校の課題に近い具体的な実践事例を参考にされていたことが窺える。

項目	人数	割合
各校の実践事例	41	48.8%
カリマネってなんだろう	28	33.3%
Q&A インデックス	14	16.7%
参考資料集	12	14.3%
Yes/No チャート	9	10.7%

### 【課題及び考えられる改善方策】

●Webフォーラムの資料作成の際、各調査研究校から提出された発表資料で示されていたことと、府教育庁が学校訪問した際にとっても良いと感じた取組みや、教職員や児童生徒にとっての成果についてギャップがあった。「当事者（学校）は、自分たちの取組みのよさや成果について過小評価しがちである」ということがわかった。

学校の中でPDCAサイクルを回しながら、取り組んだことについて評価をしているものの成果を実感していない、あるいは「当たり前に行っていること」として学校が認識していないことに対して、市町村教育委員会や、府教育庁が客観的に学校の取組みについて価値づけしたり、成果として着目することを促したりすることが必要であると考えます。

また、今年度は、まず「教職員が組織的に動けるようにする」という意識が中心だったが、次年度はあらゆる取組みについて、子どもや教職員の変容を実感できるよう研究を進めていきたい。

## 4. 参考資料

### 【必須】

①実践地域の取組の概要が分かるもの

②カリキュラム・マネジメント検討会議の資料

※ 2年目は①実践地域の取組の概要が分かるものに代わり、カリキュラム・マネジメントの展開に資する手引きを提出すること。

### 【任意】

・各種アンケート結果

・その他 参考となる資料